

まきだより

平成26年2月15日発行 第5号
神石高原町牧ふれあいセンター内
牧自治振興会まきお知らせ隊

第2回里帰り交流会 開催

平成26年1月4日(土),第2回里帰り交流会が牧ふれあいセンターで開催されました。

牧出身で町外に住んでいる方、島根県中山間地域研究センターの方、神石高原町まちづくり振興課職員、地域おこし協力隊、牧自治振興会役員 計20名が参加しました。



はじめに、神石高原町まちづくり振興課から「神石高原町の状況(定住政策や空き家バンク等)」について説明を受けました。その後、町外に住んでいる方から寄せられた意見をもとに今後、取り組むべきことについて熱心に協議されました。当面、山林や空き家の管理をどのようにしたらよいか等について素案をもとに6月1日に次の会をもつことにしました。地域内の皆様のご意見もお寄せください。

とんど祭りで 無病息災を祈願

1月13日(月)午後1時30分から牧ふれあいセンターのグラウンドで「とんど祭り」が行われました。天気は晴れ、気温6度。約60名の参加がありました。参加者には、ぜんざい・おでん等がふるまわれました。とんどの火で焼いたおもちも食べました。

今年も元気に過ごせますように！



ロゴマーク募集

牧自治振興会ではさらなる活性化を目指して農産物などを使った加工品を作り、それを商品化することに取り組んでいます。そこで、様々な商品に共通した牧自治振興会のイメージを持つてもらえるようにロゴ(商品象徴するようなイメージなどを図案化・マークにしたもの)を作りたいと考えています。作製にあたって必要な条件として「牧小学校の校章」と「元気なおばちゃん」を組み込んだものをお願いします。

地域の特徴と熱意を表すようなデザインをお待ちしています。詳しくは牧自治振興会のHPかブログをご覧ください。

牧自治振興会HP <http://www.kagayakinet.ne.jp/~maki/>

牧自治振興会ブログ <http://blog.livedoor.jp/makishinkoukai/>

牧のお宝 せわりじぞう 背割地蔵

牧郷集会所の横に背割地蔵のお堂があります。このお地蔵様にはこんないわれがあります。

『今から約290年前、福山藩主 阿部正弘の時代、中津の左源太という人が牧の年貢を定量して二万石と定めたが、その年貢はあまりに高く、村人は非常な苦しみにつつまれた。米の大部分を年貢として出し、麦や粟を食い、時には三度の食事にも欠く有様であった。』

この困苦を目撃した庄屋 横山六左衛門は村人を救おうと、藩主が巡行の際、牧の地にて嘆願書を竹の割鉄にはさんで直訴した。その当時は直訴すれば打首になるおきてであった。幸い年貢は減じられたが、六左衛門は捕らえられ福山の峠で背を割られ油を注いで火責めの処刑を受けて死んだ。村人は減税を喜んだが、犠牲者の功績に対して何の施行もしなかった。六左衛門の霊はこれを悲しみ、夜な夜な夜盗虫となって作物を荒らした。村人は困って種々祈禱をしたところ六左衛門のたたりであることがわかり、今更のように恩を感じ、供養のために四十八貫の背割地蔵を作って盛大に供養した。以後夜盗虫は絶えたという。』

「神石町の伝説」(神石町教育委員会編)より

